1P123

5歳児に「自分のからだ」を伝える事業（2）―担任へのインタビューから得た子どもと担任の反応―

川瀬 浩子、宮﨑 つた子、菱沼 典子

三重県立看護大学

【目的】
5歳児に「自分のからだを知る」ことを教える事業に参加した担任にインタビューを行い、事業実施後の５歳児の反応や、担任自身の事業実施前・後の思いを明らかにし、今後の事業改善の一助とする。

【方法】
インタビューガイドを用いた半構成的面接を行った。インタビューは、「事業後の子どもの様子」や担任の「事業前の思い」と「事業後の思い」について語ってもらった。インタビュー内容は、録音した音声データすべてから逐語録を作成し、「事業後の子どもの様子」や「事業前の思い」と「事業後の思い」を表している部分を抽出し、質的記述的方法で分析を行った。

【結果】
実施園３園の対象者の年齢は23 ～ 37歳、保育歴は1.3 ～ 17.3年、女性4名であった。「事業後の子どもの様子」では《からだのしくみの理解》《からだへの興味・関心の高まり》《健康的な生活習慣の理解》《健康的な生活習慣の実行》《からだの様子を判断》の5つのカテゴリに、担任の「事業前の思い」では《子どもの反応への不安》《事業への不安》《事業への期待》《紙芝居が難しい》の4つのカテゴリに、事業後の想いでは《子どもの学びへの反応》《事業への好感》《自分自身の保育の姿勢への刺激》《効果的な教材》の4つのカテゴリに集約できた。

【考察】
子ども達は《からだのしくみの理解》や《からだへの興味・関心の高まり》から、からだに関する正しい知識をもち、《健康的な生活習慣の理解》や《健康的な生活習慣の実行》ができていた。さらに、学んだ内容に基づき、《からだの様子を判断》できるようにもなっていた。本事業は、５歳児がからだに関する正しい知識をもち、健康的な生活習慣を獲得することへの支援になったと考えられる。一方担任は、事業前の思いでは、「子どもが興味を持ってくれるか不安」や「子どもに伝わるか不安」といった《子どもの反応への不安》や、《事業への不安》と《紙芝居が難しい》があった。しかし実施後は、「子どもの関心の深まりを実感」等の《子どもの学びへの反応》を感じ、「からだのことを伝えるいい機会」等の《事業への好感》をもっていた。さらに、「自分も学んだ」や「学んだ内容を継続して伝えていく意欲」等の《自身の保育の姿勢への刺激》を受けており、《効果的な教材》とも感じていた。本事業が、担任を「教える人材『からだ先生』」として育成する機会となったと考えられる。

1P124

歯科受診が困難な非定型発達児の受診準備支援動画制作に向けた一考察

内山 由美子

帝京大学医療技術学部　スポーツ医療学科

【はじめに】
我が国の保育所、幼稚園等における未就学児の歯科健診後の状況をみてみると、未受診・未治療の状態の子どもが多く、それは、児が歯科受診を嫌がることによる保護者の負担感も一因すると考えられる。とりわけ非定型発達児の歯科受診では、児の特性により、怖がる、パニック、診察拒否等を保護者が経験することにより、受診意欲が減退するケースも見受けられる。本研究では、筆者が過去に実施した、「非定型発達児の医療機関受診準備のためのニーズ調査（面接調査）（質問紙調査）」の両データを二次的に分析し、歯科受診に向けた保護者の負担感・困難感を抽出した上で、歯科受診が困難な非定型発達児の受診支援動画作成に向けた考察を行った。

【方法】
1）分析に使用したデータ
データ１：面接調査　<対象>療育施設に通所する非定型発達児の保護者6名、<方法>インタビューガイドを用いた半構造化グループインタビュー（2019年9月実施）、<分析>内容分析
データ2：質問紙調査　<対象>療育施設に通所する非定型発達児の保護者40名、<方法>質問紙調査（2020年3月実施）
２）抽出・分析方法
データ１，２より、①対象者の属性、②児の属性・特性、③医療機関受診時の困難経験の内容と苦痛のその程度のうち歯科受診に関するもの、④受診時の困難経験後の児の変化のうち歯科受診に関するもの、⑤受診時の困難経験後の保護者の変化のうち歯科受診に関するもの、⑥歯科受診前支援に対する保護者のニーズのうち歯科受診に関するものを抽出した。

【倫理的配慮】
元データとなった両研究は、それぞれ帝京大学医学系研究倫理委員会の倫理審査の承認を受けて行った。

【結果・考察】
歯科受診時に保護者が経験する困難の内容は、①医療機関側の理解、②保護者教育により軽減可能なものに分類され、それらの困難経験の中で特に苦痛の度合いが高いものは、児の特性を歯科に伝えているが、対応してもらえた実感が得られないことに由来し、受診躊躇に繋がっていた。保護者は歯科ホームページや口コミの情報を頼りに受診するクリニックを探しており、ホームページでの情報提供やコミュニケーションが、歯科受診のハードルを下げることに繋がると推察でき、歯科のホームページに非定型発達児への対応方法や、受診準備の方法、動画による支援教材を掲載することが有効であると考えられた。受診支援動画では以上の点を踏まえ制作していく。

Presented by Medical*Online